

日本精鉱

三酸化アンチモン 中国で拡販

上海法人で O E M体制整備
開業式典

【上海支局】日本精鉱は、中国で三酸化アンチモンを拡販する。現地法人の日銻精礦(上海)商貿を設立し、三酸化アンチモンの販売機能とOEM生産による現地供給体制を整え、自動車関連などの日系需要家の現地調達ニーズに応える。中国の需要は拡大が続いているが、高品質の三酸化アンチモンの調達が

難しく、日本精鉱は現地供給化によって、需要家の競争力強化に寄与し、事業拡大につなげる考え。日銻精礦を7月に設立し、10月に営業を始めた。12月16日に催した上海での開業式典で木嶋正憲・日本精鉱社長は、「現地法人のメリットを生かしながら、日本と同等以上の製品とサービスを提供し、

顧客とともに発展していきたい」と抱負を語った。坂東二郎・日銻精礦董事長が、「中国のOEM工場を生産し、日本で品質をチェックするので安心して使っていただけ」と万全の体制を強調し、双日の大野滋・中国総代表と日本国駐上海総領事館の丸山浩一・主席領事が祝辞を述べた。式典には取引先中心に約70人

が出席した。三酸化アンチモンは、樹脂の難燃助剤として使用される。中国には中瀬製錬所(兵庫県)から高機能の特殊製品を輸出してきたが、自動車や家電、化学などの需要家が調達しにくい高品質の三酸化アンチモンの現地生産を要望。長年、検討してきた結果、OEM生産を決め、現地供給

に乗り出した。中国は原料のアンチモンの世界生産シェア90%以上を占め、日本



開業式典でスタッフを紹介(右から3人目が坂東董事長)に多く輸出している。日本精鉱は中国で原料から一貫して製品を造ることで、競争力の高い事業を構築。汎用品を現地生産し、日本で検査して品質を保証する。自動車関連など日系需要家の調達増を見込み、華東・華南地区など主に製造業の集積地に販売。

特殊製品はこれまで同様、日本からの輸出で対応し、需要家の幅広い要求に対応する。